GOODLIFE

『BizRobo!現場スケール』





株式会社グッドライフ
竹内 瑞樹
2019年09月18日

GOOD ROBOT

自己紹介



某大手情報システム部
1998年～2017年(19年)

某大手RPA全社展開リーダー
2017年～2018年(2年)

トップダウン型、現場開発型いずれの導入展開も経験

現場開発型RPA導入において
現場開発者育成プログラムを作成し、
社内スケールのための社内運用法を確立

現場開発者６００人が自走する体質へ

その効果！

業務部門から提出されているロボットアイデア1000体以上

ロボット化による業務削減時間見込み150,000時間以上

第2回ロボットコンテスト



BizRobo!LAND2018



京都大学経営管理大学院 同窓会総会



札幌商工会議所



Accel Conference 2nd



サイボウズ働き方改革



RPA DIGITAL WORLD2019



SoftbankWorld2019



RPA+働き方改革 コンソーシアム



金融×ITセミナー



マイナビニュース ウェビナー



BizRobo!LAND2019

本日実施中

ユーザー目線から見た現場スケールの成功法則を全国に伝える活動をしています



BizRobo!

の得意分野ってなに？

結論から言うとBizRobo!は現場スケール



BizRobo!は現場が開発して数多くロボットを作るのに向いている

RPAの効果の出し方



パターン①　（従来のシステム開発の進め方）





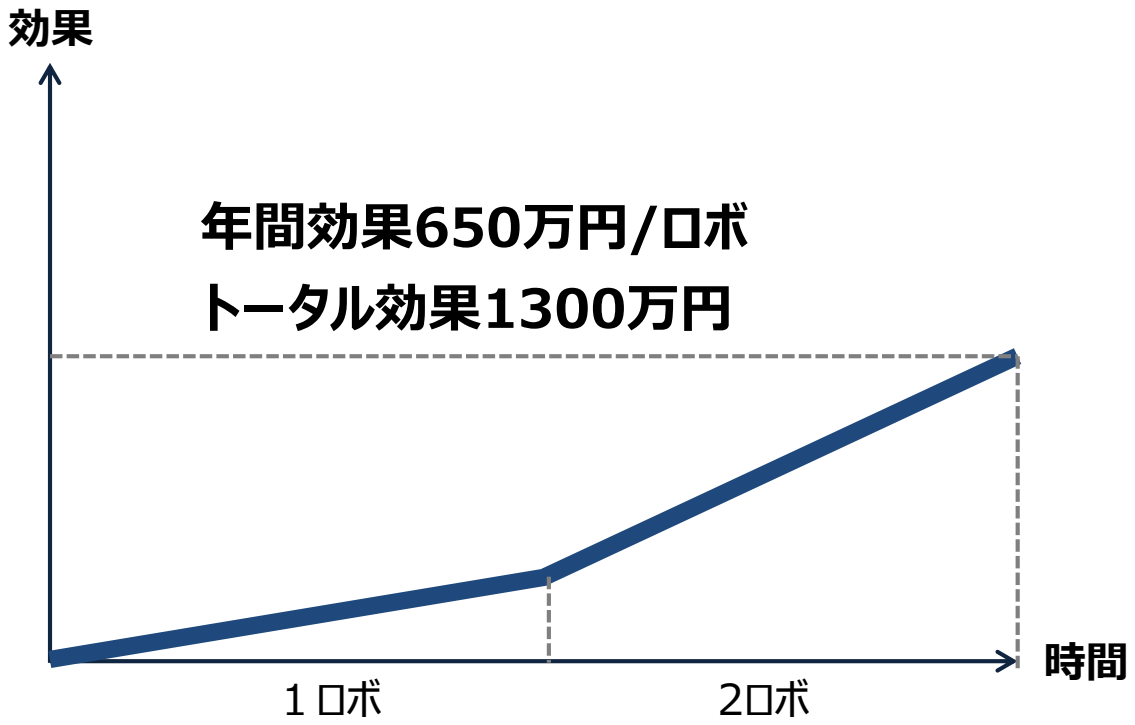
企画系システム系の人が業務を分析。
厳選した高い効果のあるロボを開発。

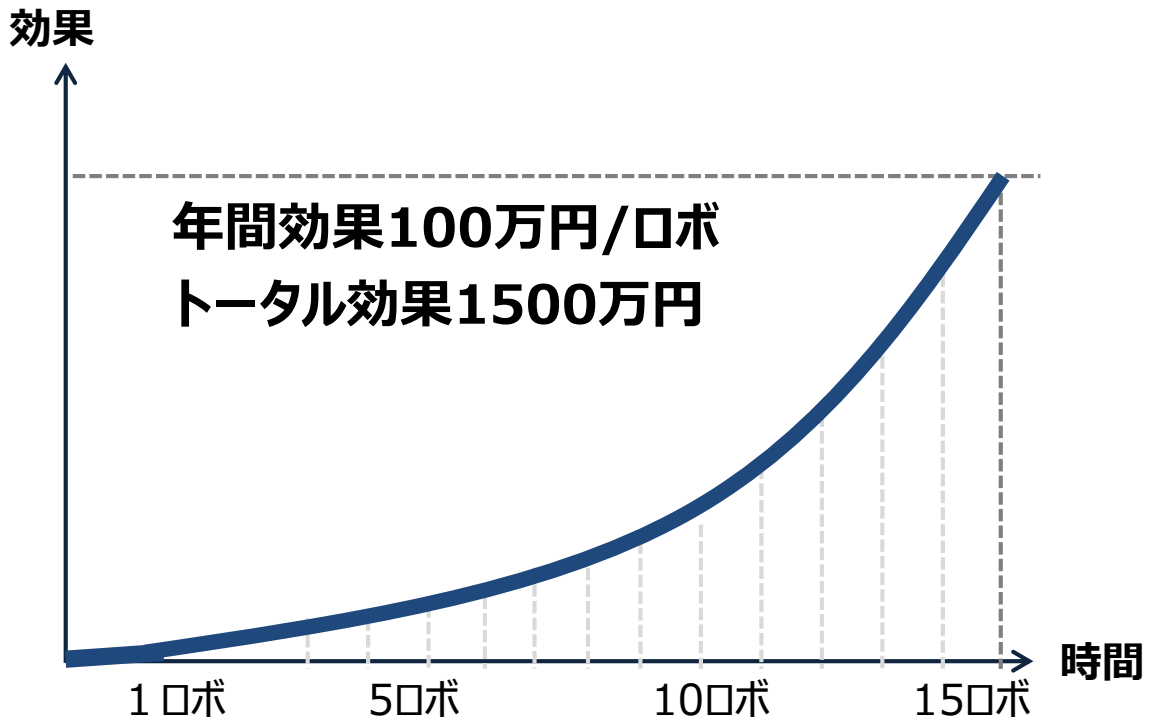
パターン②　（BizRobo!ならではの進め方）



現場担当者がそれぞれ自分の持つ定例作業をロボ化
数多くのロボの効果を積み上げる

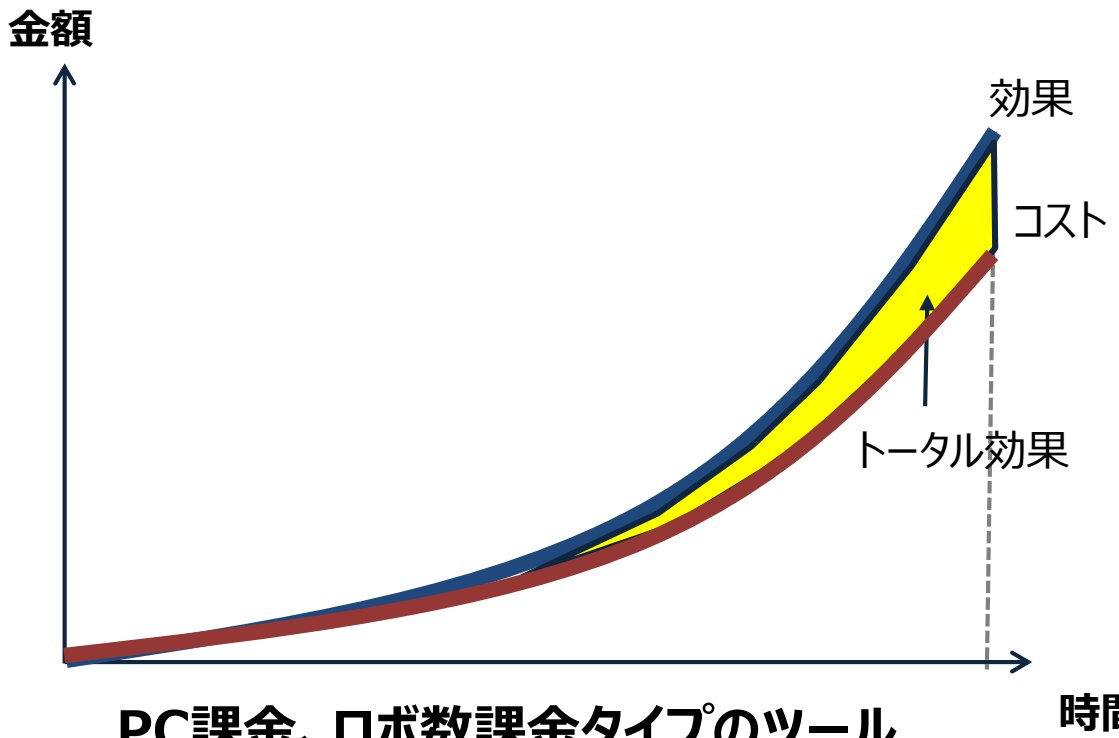
RPAにおける効果の出方



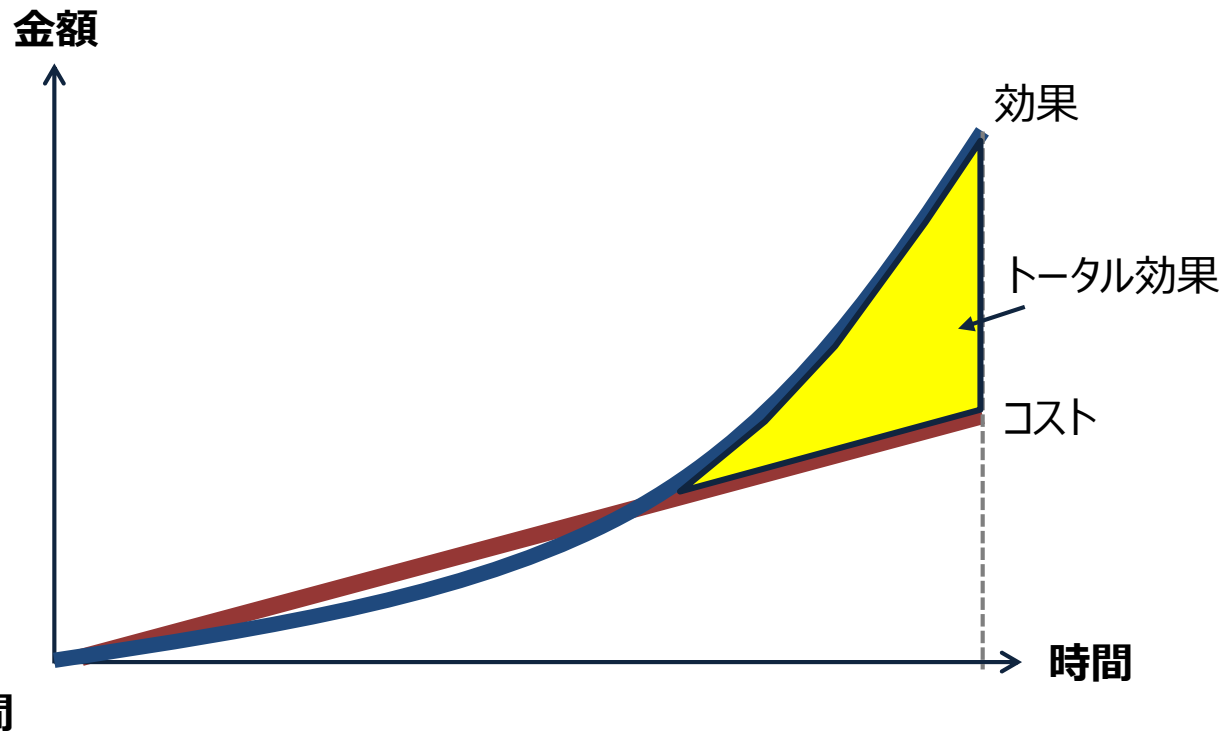


時間をかけて効果の高いロボを数体作るよりも、１ロボあたりの効果は少なくても大人数で数多くのロボットを作る方が大きな効果を得ることができる。

RPAにおけるライセンスコストのかかり方



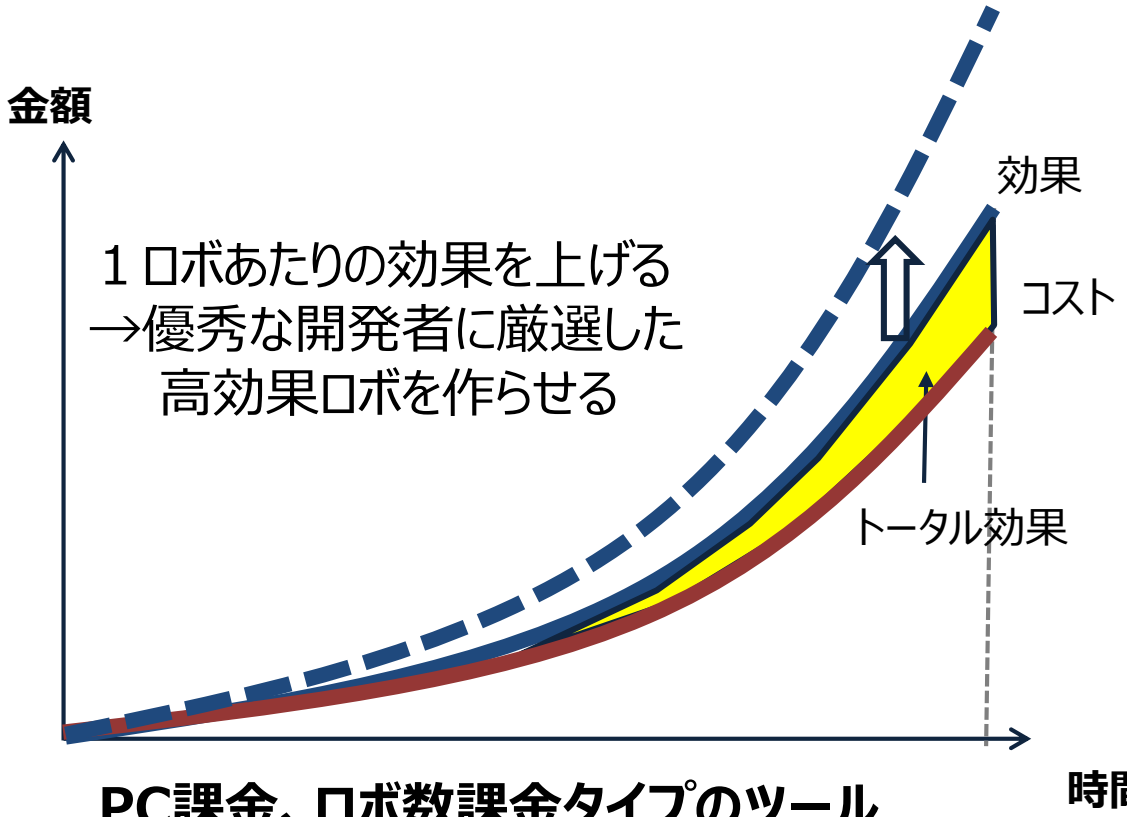
PC課金、ロボ数課金タイプのツール
（ロボ数がライセンスコストにほぼ比例する）



（ロボ数がライセンスコストに正比例しない）

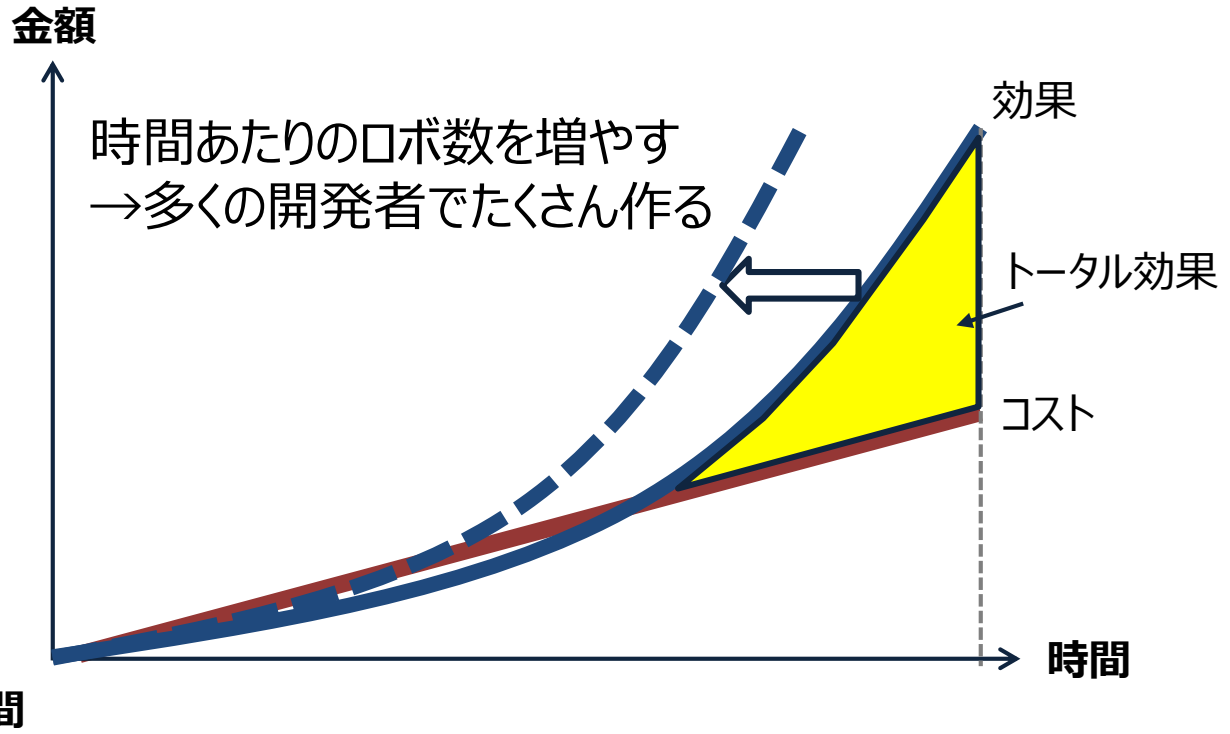
前者は黒字で推移しても大きな効果を出しにくい。
後者は活動初期は赤字でも時間と共に大きな効果が期待できる。

RPAにおける効果の高め方



PC課金、ロボ数課金タイプのツール

（ロボ数がライセンスコストにほぼ比例する）



（ロボ数がライセンスコストに正比例しない）

結論：現場開発型メソッドでは後者の方が都合が良い。

（効果が小さくても嫌な作業全部自動化して良い）

ロボ大量開発×現場担当者開発のツールとは

動作環境・開発難易度による分類

動作環境 ＼ 開発難易度	現場担当者が開発できる 	現場担当者には開発厳しい 
開発者数・ロボ数にライセンスコストが比例しない		
開発者数・ロボ数にライセンスコストが比例する		

ロボ量産向き

ロボ厳選向き



現場開発可能



情S開発向き

ここまで話した時によくある質問

現場が自らRPA開発をしたいと言いますか？

例　トップダウンのRPA導入の場合

ロボット開発における要件

高品質　　セキュリティ担保　　保守性

→情報システム部門が得意だから、情報システム部門で開発する

現場が自らRPA開発をしたいと言いますか？

情報システムが現場にヒアリング、しかし・・・

・現場からロボット化のアイデアが出てこない →盛り上らず細々と活動

＜現場の気持ち＞

自分の仕事が自動化されたらクビになってしまう

自分の仕事の仕方を他人に分析されてとやかく言われたくない

忙しいのにまたなんかやらされるのか

ロボットが何できるか知らんし、私の仕事単純に自動化できるほど簡単ちゃうわ

・現場の要望に情報システム部門のリソースが追い付かない

＜現場状況＞ →情シスパンク・現場不満

情報システム部の人数　<<　現場業務担当者の人数

現場が自らRPA開発をしたいと言いますか？

現場が自身で改善するとなると意識が変わる



もしかして、あの毎日のうんざりする繰り返し作業を無くせるの！？

これ、自分の残業時間減らせるんじゃないか？

自分で改善したら上司に評価されるんちゃうか？

→改善に前向きになる

自分で　自分のできる時に　自分のやりたい業務を自動化

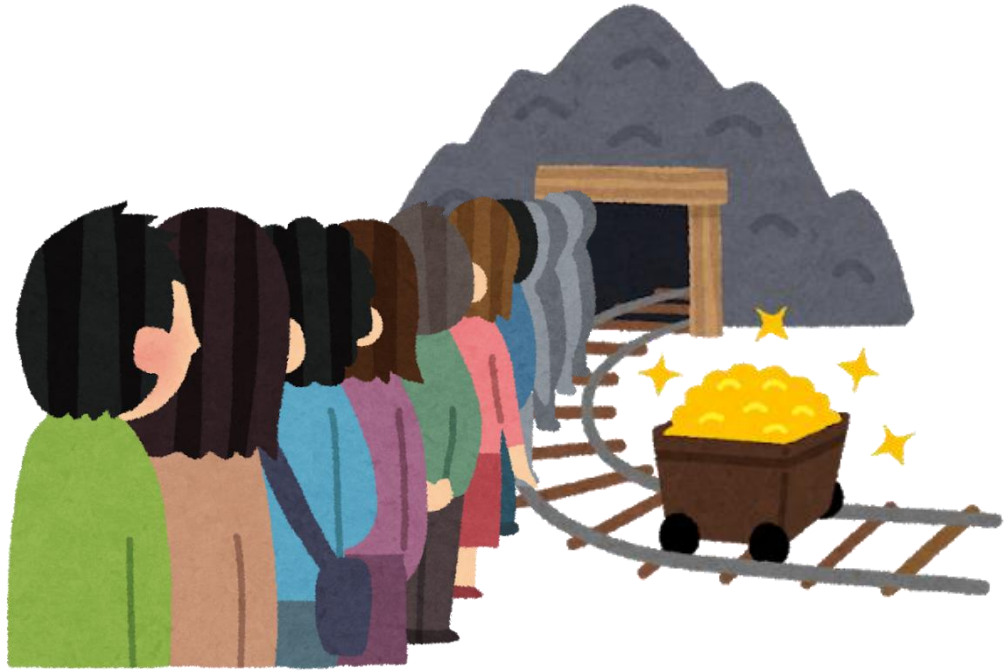
→だからやろうという気になる！

本当に価値のある自動化アイデアは現場が持っている

→自分で提案できる　　→だから現場は楽しくなる！

現場が自らRPA開発をしたいと言いますか？

是非募集してみてください。現場の開発希望者は殺到します。
（経験談）
某大手では１年100人育成の企画が半年で600人殺到
別の大手でも「絶対現場集まらない」と言っていたが、開始すると
１か月で250人。さらに希望者増加中



開発者は必ず現場からでも育ちます。
その為に開発よりも重要なものがあるんです。

現場担当者の開発で品質担保できますか？



現場担当者の開発で品質担保できますか？



出来ません！
なので運営部隊を設置し現場を支援する仕組みが必要

現場スケールに欠かせない３要素



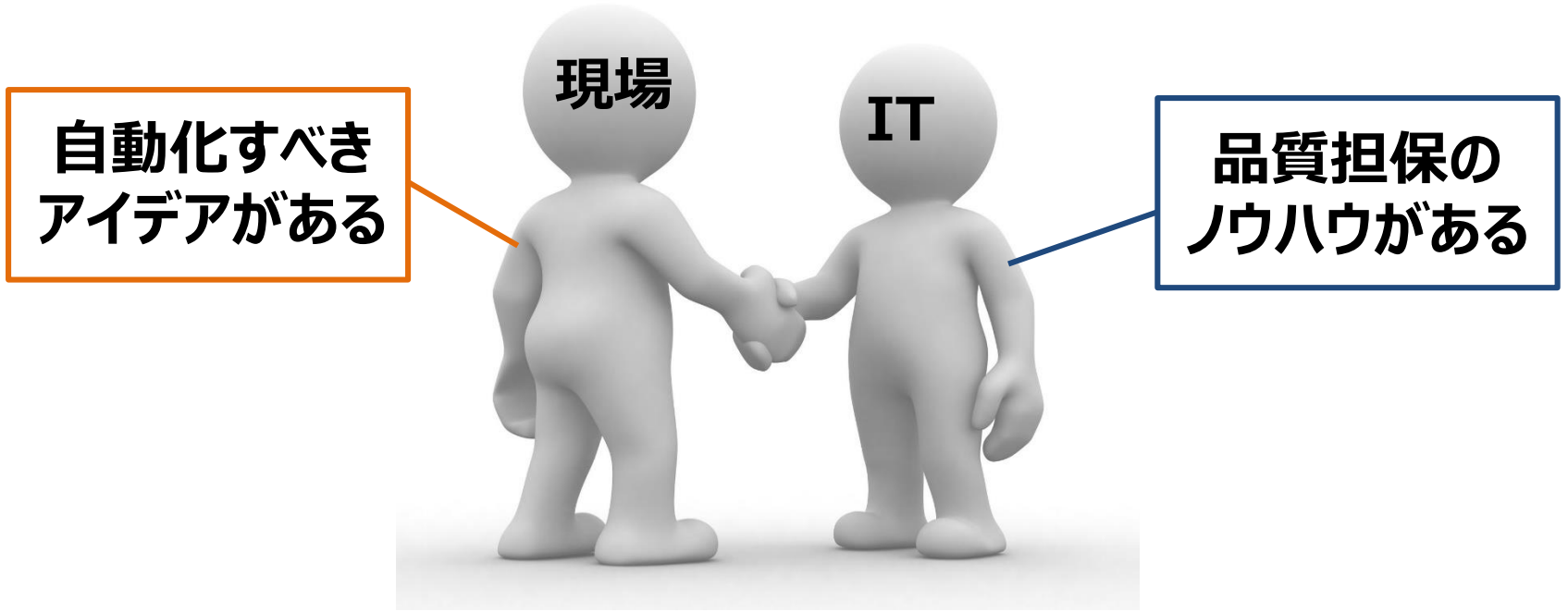
現場スケールに向いたRPAツールを選択すること

現場を統制する運用ルール、開発標準整備すること

現場開発者を教育し、継続的にスキル向上できる環境があること

RPAは現場とIT部門の協働必須

現場が開発し、IT部門は運営として現場開発を支援
現場が品質担保できるような仕組み、仕掛けを作る



ホワイトカラーとブルーカラーを明確に分ける欧米と違い、現場担当者が
試行錯誤し工夫を凝らす日本の文化は現場開発型の進め方に向いている。

運営がやるべきこと

ロボット品質向上の仕掛け

・テスト方法の標準化
・セキュリティ担保の為の通信やデータ保管のルール策定
・内部統制上の問題チェック
・保守性を意識した開発標準の策定

やってはいけない事の徹底

・経費精算の承認行為等
・基幹システムへの高負荷アクセス
・人が最低限チェックすべき項目の自動化



野良ロボの対策

・ロボット業務の見える化
・ロボット内容の開発者間共有

※コンサル依頼の多いところ

運営がやるべきこと

その他

- サーバー構築
- 開発相談受付
- 問合せ対応
- すべてのロボットの管理
- ポータルサイト作成

とはいえ、現場に難しいルールばかり引いていては前向きになれません

楽しめる環境を作っていく

- コミュニティ作成・運営
- 全社イベント（ロボットコンテスト、ランキング表彰等）

現場開発型RPAスケール成功法則のポイント

- 現場スケールに向いたRPAツールを選択すること
- 現場を統制する運用ルール、開発標準整備すること
- 現場開発者を教育し、継続的にスキル向上できる環境があること

教育と継続的にスキル向上する環境とは？

イメージはテーマパークのような環境



開発仲間交流



検定試験



集合研修

開発者達が楽しみながら
互いに切磋琢磨し助け合い
成長していく環境



演習挑戦



活動競争

学習を継続させるトレーニング法

よくこういう話を耳にします。

「RPAって誰でもできるらしいよ、今度ロボット作ってみて」



RPAは素人が独学でマスターできるほど簡単ではありません
これでは現場は続きません。しっかりとした教育が必要です

私が考える現場の教育とは

現場がこれなら自分もできる！と思える研修

＋

継続してロボット開発スキルを学習する仕掛け

現場がこれなら自分もできる！と思える研修

できると実感できた研修は、他者に紹介され拡大していきます。



研修がスケールのキッカケとなります。

現場がこれなら自分もできる！と思える研修

実際の業務を想定して作られた内容

少人数制、分からない時はすぐ質問できる

初心者が陥りやすい内容を網羅

分かりやすいテキスト、持ち帰り復習可能

手ぶらで参加できる気楽さ

7.5時間×2日という必要最低限な学習時間





学習を継続させるトレーニング法

では研修を受けさえすればいいのか？

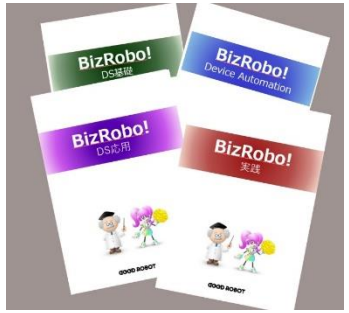
「RPAの研修、受けたんだけど、その後何か月も触ってないから
もう忘れちゃった。」



せっかく良い研修を受けても続けなければ誰でも忘れます。
次に必要なのは継続して学習しようという仕掛けです。

継続してロボット開発スキルを学習する仕掛け

【開発者育成研修】



【RPA開発】



時間経過で
忘れやすい

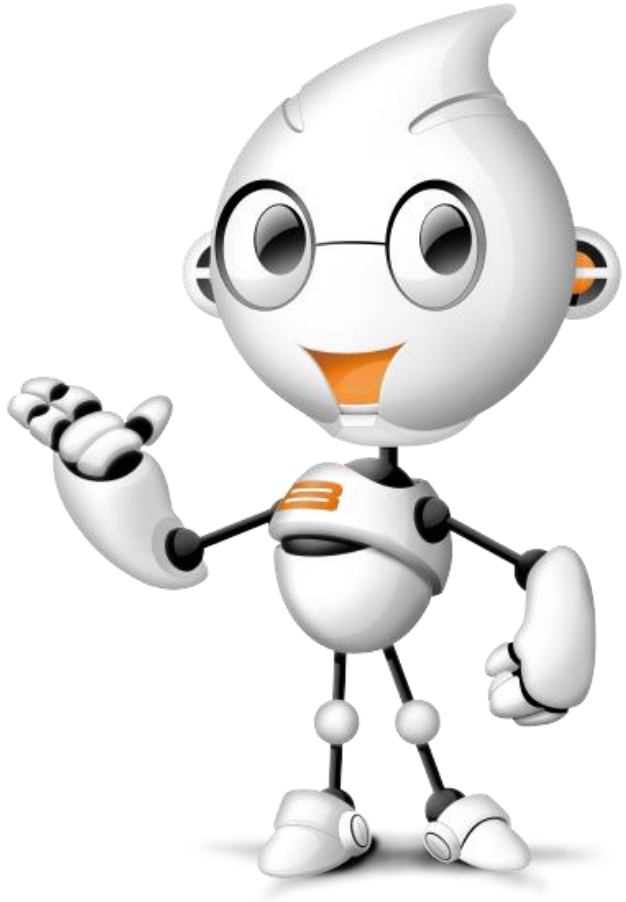




楽しく継続
スキル定着

例えば、検定試験という目標があるだけで継続学習者は飛躍的に向上します
作り方が分からない時、仲間がすぐに教えてくれれば学習のストレスがなくなります
ライバル部署が頑張っているのが見えれば、自部署も頑張ろうと競争心が生まれます

大角（BizRobo!）と竹内（現場スケールメソッド）のタッグ







BizRobo! × 開発標準 教育 × 継続成長環境 COMMUNITY

BizRobo!LAND Communityとは

日本全国のBizRobo!ユーザー向けテーマパーク

【ポイント】

- 日本全国のBizRobo!ユーザー全員が無料で参加できるSNS
- 開発者同士助け合いのコミュニティ
  （わからない時は聞く、わかる時は教えてあげる）
- 情報交流、ランキング表彰等
- ロボットアイデアの共有
- 全国のツワモノがスキルを競い合うBizRobo!オリンピック　等

日本全国みんなで助け合い励まし合い、日本全体を良くしようというコンセプト

BizRobo!LAND Communityとは

日本の抱える労働人口不足問題は明治維新や戦後の経済成長時と同様日本人全体が協力して取組まなければならない大きな危機



「日本はかつて栄えていたらしい」という噂の国になる前に
現場が自らの力で成長する環境を作りたい

最後に

RPAで一番効果のでないパターン、それはなんだかんだ始めない事



最後に

とにかくそこに落ちてるものから採ってみる。すると色々わかって動き出す



是非BizRobo!LAND Communityをご活用下さい



ご清聴ありがとうございました